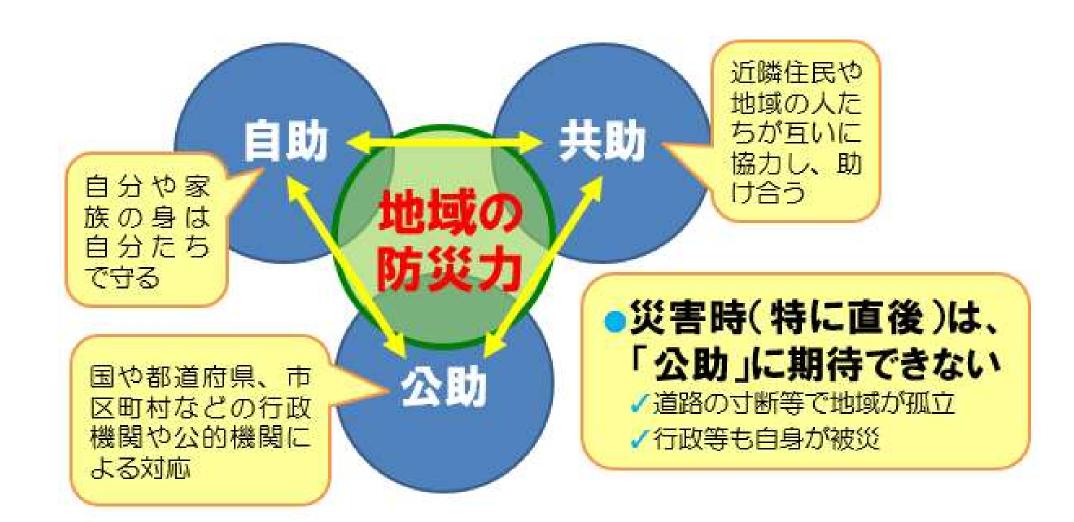
令和4年度碧南市防災講演会

災害時に求められる共助とその促進の必要性

~減災のための助け合いの具体例について~

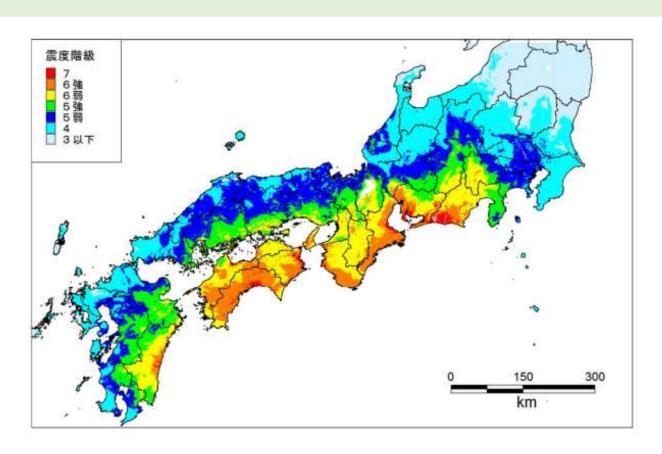
令和4年7月2日(土)、3日(日)

碧南市防災課



「地域防災リーダーテキスト」 内閣府 から抜粋

南海トラフ地震=超広域災害



被災地九州から関東まで

人的被害 約23万人

直接的な経済損失約170兆円

出典 南海トラフ巨大地震の被害想定(建物被害・人的被害) (再計算) (令和元年6月) 内閣府

公助の限界

- ・行政が全ての被災者を迅速に支援することは困難。
- ・行政自体が被災して機能が麻痺することがある。

平成26年版 防災白書



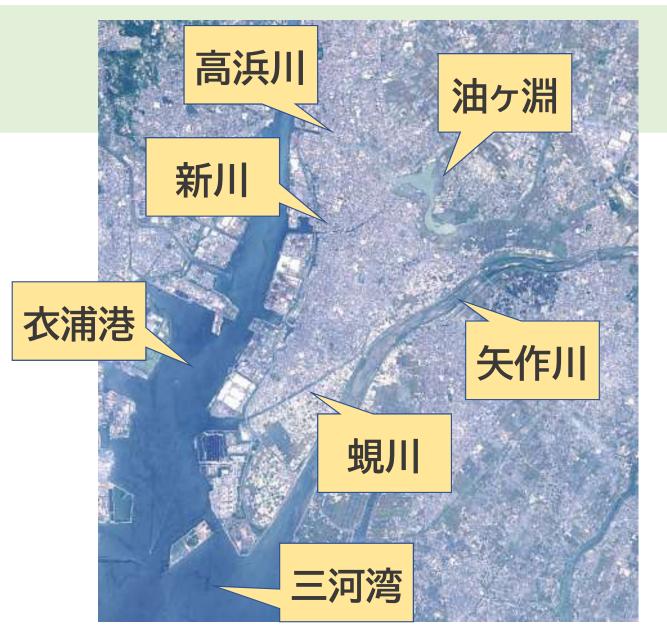
南海トラフ地震発災時にも直面せざるを得ない

消防、警察、自衛隊にも限界がある

- ・消防、警察、自衛隊の職員数、装備にも限界がある。
- ・碧南市以外(名古屋等大都市)も広域で被災地になる。



被災直後に十分な救助活動を受けられない可能性が高い



水に囲まれた碧南市

橋・道路の被害



- ・職員参集
- ・外部からの応援 に影響あり

公助の限界は碧南市でも起こり得る



出典 市町村のための人的応援の受入れのための受援計画策定の手引き(令和2年4月)内閣府

災害直後に期待される共助

実際として、

発災直後は、住民同士の助け合いが必要となる。



(もちろん、できる範囲での助け合い)

どんな助け合いが必要か?

次頁以降に共助の具体例

時期を①発災時

- ②発災直後~1日目
- ③2日~3日目
- 44日目以降

- 内容を 1.情報の収集と共有
 - 2.安全な場所への避難誘導
 - 3.火災を広げない
 - 4.救助·救護
 - 5.避難生活への対応

に大別

「共助」の具体例① ※南海トラフ地震等大規模地震発災時を想定。実際には前後する可能性もあります。

内容/動き	発災時	発災直後~1日目	2日~3日目	4日目以降
行政の動き	・職員参集開始 ・避難情報の発信 ・安否情報の収集 ・被災状況の確認 等	・避難所開設 ・救護所設置 ・救助活動	・道路啓開 ・市備蓄の提供 ・遺体安置所の設置 ・市外からの救援受 入れ準備	・市外からの救援物資の提供
※想定の一部です 長引いたりする可	。状況に応じて前後したり 能性があります。	J.	・災害廃棄物の対応 準備	
	・避難指示等の伝達	安否確認や被害状況のから行います。	の情報収集は安全確保が	できて
情報の収集 と共有		・安否確認及び市への伝達		
		・ <u>地域内の被害状況等の情</u> 報収集と市への伝達		
具体的な取組例	●避難訓練・避難経路 の確認	●安否確認訓練 ●大丈夫ですタオル		10

「共助」の具体例② ※南海トラフ地震等大規模地震発災時を想定。実際には前後する可能性もあります。

内容/動き	発災時	発災直後~1日目	2日~3日目	4日目以降
行政の動き	・職員参集開始 ・避難情報の発信 ・安否情報の収集 ・被災状況の確認 等	・避難所開設 ・救護所設置 ・救助活動	・道路啓開 ・市備蓄の提供 ・遺体安置所の設置 ・市外からの救援受 入れ準備 ・災害廃棄物の対応 準備	・市外からの救援物資の提供
<u>安全な場所</u> への避難誘	・安全な場所への避難誘導			
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・近隣同士の避難の声かけ			
	・ <u>避難行動要支援者等への避難</u> <u>協力</u>			
具体的な取組例	●避難訓練・避難経路の確認●避難行動要支援者名簿の確認●大丈夫ですタオル			11

「共助」の具体例③ ※南海トラフ地震等大規模地震発災時を想定。実際には前後する可能性もあります。

内容/動き	発災時	発災直後~1日目	2日~3日目	4日目以降
行政の動き	・職員参集開始 ・避難情報の発信 ・安否情報の収集 ・被災状況の確認 等	・避難所開設 ・救護所設置 ・救助活動	・道路啓開 ・市備蓄の提供 ・遺体安置所の設置 ・市外からの救援受 入れ準備	・市外から の救援物資 の提供
	「ブレーカーを落としておくことの声がけ」も通 火災を未然に防ぐのに有効です。			
<u>火災を広げ</u> <u>ない</u>	・初期消火の実施			
具体的な取組例	可搬ポンプ操作訓練消火器取扱訓練街頭消火器の確認			

※通電火災 電力復旧時に地震等により傷んだ配線や電気ストーブなどから出火する火災のこと。 阪神淡路大震災や東日本大震災で発生した火災の半数近くは電気に起因するものだった。 「共助」の具体例④ ※南海トラフ地震等大規模地震発災時を想定。実際には前後する可能性もあります。

内容/動き	発災時	発災直後~1日目	2日~3日目	4日目以降
行政の動き	・職員参集開始 ・避難情報の発信 ・安否情報の収集 ・被災状況の確認 等	・避難所開設 ・救護所設置 ・救助活動	・道路啓開 ・市備蓄の提供 ・遺体安置所の設置 ・市外からの救援受 入れ準備 ・災害廃棄物の対応 準備	・市外からの救援物資の提供
救助・救護	・ <u>家屋等の下敷きになった</u> 人の救助			
	・ <u>怪我人の応急処置</u>			
	・救護所等への搬送			
			・行方不明者の捜索	
具体的な取組例	●救助訓練 ●応急処置訓練 ●担架等取扱訓練			13

「共助」の具体例⑤ ※南海トラフ地震等大規模地震発災時を想定。実際には前後する可能性もあります。

内容/動き	発災時	発災直後~1日 目	2日~3日目	4日目以降
行政の動き	・職員参集開始 ・避難情報の発信 ・安否情報の収集 ・被災状況の確認 等	・避難所開設 ・救護所設置 ・救助活動	・道路啓開 ・市備蓄の提供 ・遺体安置所の設置 ・市外からの救援受入れ準備 ・災害廃棄物の対応準備	・市外からの救援物資の提供
<u>避難生活への</u> 対応		・避難所開設		
		・ <u>避難所運営</u>		
		ı	・ <u>炊き出し</u>	
			・町内の防犯パトロール	
		ı	・自宅等復旧の助け合い	
	災害ゴミ分別ルール配・運搬、応急給2			・市の災害応急対策業務への協力
具体的な取組例		●FMB訓練 ●避難所運営訓練	●炊き出し訓練	14

情報の収集と共有「共助」の具体例①

• 避難指示等の伝達

避難指示等を知ったら、声を掛け合う



避難行動へ

・安否確認及び市への伝達

安否確認は、避難が完了し、安全が確保された 後に実施しましょう。

隣近所で安否確認をする仕組みを



救助、 相談につながる

できる範囲でご協力願います。 -----

結果を市に報告



市 状況把握やその後の対応に活かせる

情報の収集と共有「共助」の具体例①

できる範囲でご協力願います。

・地域内の被害状況等の情報収集と市への伝達

確認できた情報を市に報告 例. 道路、水道管、電柱等



市 救援・救助、復旧に活かせる

今日お話する具体的な取り組み例

地域の事情は様々です。必ず地区で実施するように要請するものではありません。

参考として取り組み例を紹介します

情報の収集と共有具体的な取り組み例

津波浸水想定のある地区は優先的に取り組んでいただくことをおすすめします

- ・避難訓練・避難経路の確認
 - ・地域内で避難先や避難ルートを共有
 - ・避難の声がけをルール化

津波

浸水想定のない所や一時退避場所を目指して できるだけ広い道を徒歩で避難



効果 危険な道を選ぶことなく、逃げ遅れをなくす

情報の収集と共有

具体的な取り組み例

隣近所で安否確認をする仕組みはできていますか?

•安否確認訓練

例えば

- ①回覧板を回す班の中で安否確認をする
- ②その結果を自主防災会に報告する

効果・身動きがとれなくなっていても気が付いてもらえるかも

・仕組みになっていれば周りに助けを求めやすい

情報の収集と共有

具体的な取り組み例

大丈夫ですタオル

玄関先にタオルを巻いて、 各家庭が情報発信をする 仕組み。



※碧南市では「大丈夫ですタオル」を推奨しています。在宅者が無事で救助や支援が不要ならば、 玄関などにタオルを掲げて周囲に知らせるものです。

出典 碧南市津波避難マップ (令和元年12月)

避難時や安否確認をする際に効果あり

※碧南市内では、ラミネートした表示を掲出することをルールにしている地区もあります。



情報の収集と共有具体的な取り組み例

大丈夫ですタオル

例えば 浸水想定のある場所

家を離れて避難を開始する時につける

- 効果・無事に避難を始めたことの意思表示となる
 - ・避難時の声がけを省略できる

情報の収集と共有具体的な取り組み例

大丈夫ですタオル

例えば 浸水想定のない場所 全員が無事であるときにつける

次の助け合いにつなげるために、困りご とがある場合に表示する方法も考えられ るね。



- 効果・その世帯が無事であることの意思表示となる
 - ・安否確認の時間短縮につながる

安全な場所への避難誘導「共助」の具体例②

伊勢・三河湾に「津波警報」以上が出たら

市は「避難指示」を発令



浸水想定のない安全な場所 に直ちに避難開始

- ・安全な場所への避難誘導
- ・近隣同士の避難の声かけ
- ・避難行動要支援者への避難協力 ※次頁でお話します

避難は自助。 でも、声かけで、ためらう人が動く

•避難行動要支援者名簿

市が作成する名簿 災害時の避難に手助けが必要な方達を載せたもの 個人情報の提供に同意した方達が載っている

警察、消防、<u>自主防災会</u>、民生委員、 社会福祉協議会、地域包括支援センターに渡している

• 避難行動要支援者名簿の確認

自主防災会の中でならコピーの共有可能

例えば

- ・自主防災会の中でルールを決める。 例. 「避難誘導班」の人とは共有する等。
- ・地区内の手助けが必要な方の把握

• 避難行動要支援者名簿の確認

【重要】災害対策基本法上、以下の決まりがある。

- ①避難支援や安否確認以外の目的では使用できない。
- ②情報漏洩防止のための措置が必要

• 避難行動要支援者名簿の確認

自主防災会内でコピーを作成する場合のルール

①コピーを受け取る人の宣誓書を防災課に提出

※所定の様式あり。
防災課防災計画係までご連絡ください。

②名簿、コピー全てを翌年度に防災課に返却する

※自主防災会連絡協議会開催時に御持参ください。

火災を広げない「共助」の具体例③

阪神淡路大震災、東日本大震災では火災が発生 通電火災に注意が必要

※通電火災 電力復旧時に地震等により傷んだ配線や電気ストーブなどから出火する火災のこと。 阪神淡路大震災や東日本大震災で発生した火災の半数近くは電気に起因するものだった。

・初期消火の実施



「火災を起こさない、広げない」ことが大切

火災を広げない 具体的な取り組み例

・可搬ポンプ操作訓練

市内36箇所に自主防災会が管理する可搬ポンプあり火災時には消火で、水害時には排水で使用可能

•街頭消火器の点検

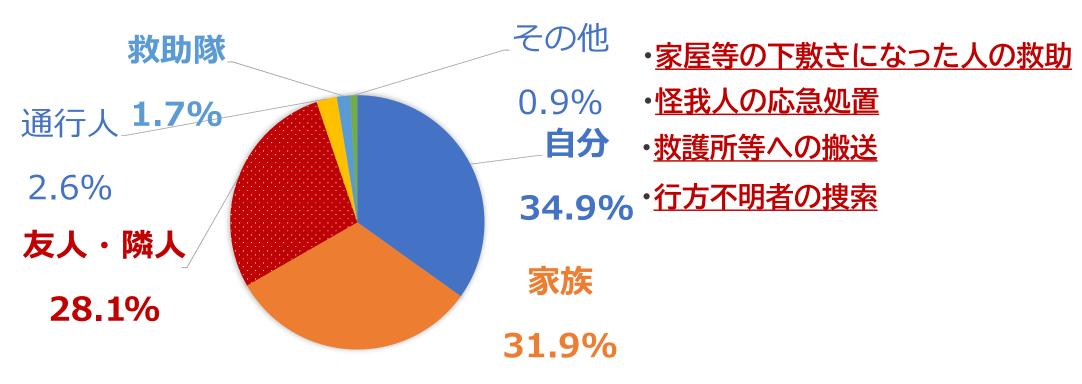
市内2,000箇所以上に消火器を設置 非常時には誰でも使える 自主防災会が点検を実施している 事前に場所を把握しておくと初期消火に使える



救助·救護

「共助」の具体例4

生き埋めや閉じ込められた際の救助主体(阪神・淡路大震災)



出典 「1995年兵庫県南部地震における火災に関する 調査報告書」、日本火災学会 負傷者の救出や応急手当が重要

救助·救護

具体的な取り組み例

- •救助訓練
- 応急処置訓練
- •担架等取扱訓練



市内には27の防災備蓄倉庫あり 自主防災会はこの倉庫を管理している 中には訓練で使用できる資材がある

避難生活への対応

「共助」の具体例5

災害下では生活全般の環境が悪化助け合いが、生活環境の悪化を防ぎ、維持・改善に欠かせない

- ·避難所開設、運営
- ·<u>炊き出し</u>
- 町内の防犯パトロール
- 自宅等復旧の助け合い
- ・市の災害応急対策業務への協力

災害時にはできる範囲でご協力をお願いします。 災害ゴミ分別ルールの周知・徹底、救援物資の分配・運搬、応急給水等が想定されます。

避難生活への対応

具体的な取り組み例

•ファーストミッションボックス(FMB)訓練

避難所開設の手順書(ファーストミッションボックス)の導入について

避難所に着いたあなた、どうする!?

発災後、本格的な避難所の運営を始めるには準備が 必要ですが、市の職員は数人しか来ないため、避難者の 協力が不可欠です。その初動となる内容をファーストミッ ションボックスを活用することで実現できるようになります。

ファーストミッションボックスとは

避難所に集まった避難者が自分たちで迅速かつ適確な 避難所開設と運営が行えるように、初めに(ファースト)や るべき任務(ミッション)を記載した手順書と、最低限必 要となる資材を入れた箱(ボックス)です。

不安な状況でも経験や知識がなくても誰でもやれるよ う、箱を開け、手順書を読んだだけで分かるように具体的 な指示が書かれています。

箱は避難所の入り口屋外に設置してあり、鍵はしてい ないので誰でもあけることができます。

ファーストミッション ボックスの中には

- ・手順書・油性ペン
- 不織布ベスト
- ・マスク ・軍手 ・ヘルメット などが袋に入った状態で、箱 の中に入れてあります。



【本部班】

指揮・避難者誘導

①本部長

- 各班への指示
- ③副本部長
- 各班の進行状況確認 避難所の鍵の管理

⑦本部班員

- 避難者の整理誘導 避難者への状況説明
 - 始めは4人

⑥【住居班】

避難者住居区画設営

- 避難所の害掃
- 避難者の住居区画設営 避難区画の受付
- ・靴袋の配布
- · 始めは5人

②【安全班】 施設の安全確認

- 避難所の鍵設置場所まで のルートと施設の安全確 認(外観内観確認による) チェックリストで倒壊な
- どの恐れがないか確認

④【トイレ班】

- 簡易トイレ設営 施設外に簡易トイレを
- 組み立てる 資機材倉庫からトイレ
- 資材を選ぶ トイレの立ち番
- 始めは3人

⑤【検温消毒班】 避難者の検温消毒

- 施設入り口で検温と消 毒を行う
- 健康な人と発熱等ある
- 人の仕分け 感染症等の予防対策
- 始めは3人

避難者が自ら避難所を 開設するための仕組み

自主防災会の訓練に 取り入れていただいて いる

担当の避難所に設置してある「ファーストミッションボックス」を使った訓練をお願いします

避難生活への対応 具体的な取り組み例

•避難所運営訓練

避難所での生活が長期にわたる場合 生活の場である避難所の運営は、 避難者による自治が原則

現状 具体的な訓練はこれからの課題

- ・避難所を担当する自主防災会の紐づけができたところ
- ・訓練にあたっては、学校等の施設側との事前調整が必要

まずはHUG(避難所運営ゲーム)等から

まずは何から?

助け合いは大切確かにそうだけども

<u>誰が考えて、</u> どう取り組んでいくのか、 続けていくのか



自主防災会や地区の役員は一年で交代してしまう



現状+αは難しい

まずは何から?

まずは、こんな姿勢で取り組み始めてみませんか?

- ・役員の方だけで抱えない
- やれるところから少しずつ取り組む
- ・最初からの成功はない。少し続けてみる



今より「ちょっと前進」の積み重ね

自主防災活動の参考資料

「自主防災組織の手引き」総務省消防庁

・自主防災組織の必要性から、自主防災組織の結成・運営体制の整備、 自主防災組織が取り組むことが期待されている活動の内容、自主防災組織の活動の 活性化に向けた連携の方策についてまとめたものです。

総務省消防庁HP

地域防災を支える自主防災組織等の育成 からご確認いただけます

https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/

とはいえ、まずは自助が欠かせない

助け合いは、住民同士、できる範囲内で自分や家族が無事であってこその助け合い

各ご家庭でできるところから取り組みましょう

パンフレット やさしい防災・減災 備L(そなえる)ガイド(家庭編) 愛知県 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/yasashiikateihen.html